



地域資源や地域特性を活かした特色のあるまちづくりを推進するため「地域の力(考え)で地域を育てる」**地域まちづくり**をすすめています。市内各地域の地域まちづくり活動団体によって取り組まれている地域まちづくりなどを**地まぢのチカラ**で情報発信します。

2023.02.28

vol.87

《令和4年度地まぢCampus講演会 開催のご報告》

地まぢNEWS

2月18日(土)に開催した講演会では、まず東京大学社会科学研究所の中村寛樹准教授にご登壇いただき、地域の身近な魅力である小ネタの重要性についてお話をいただきました。



中村寛樹 准教授

印象的だったのは「家族の関係づくり」のたとえ。突然「旅行に行く」「車を買う」という大きなイベントをしてもうまくいかない。まずは日常の小さなことで繋がり、気軽に話ができる関係づくりから始めることが大事。地域も同じで、大ネタがあっても地域が繋がっていなければ意味がない、身近な関係をつくるきっかけが小ネタなのですね。

地域の取組み

金山駅前まちそだて会

未来まちそだて学生アイデアソン

2月23日(木・祝)に、中区・熱田区の金山エリアで活動する金山駅前まちそだて会が、アイデアソン(アイデア×マラソンの造語)を開催しました。今回は、学生が参加し、未来の金山を魅力的にするための新しいアイデア創出を目指しました。当日は20人もの学生が自身のアイデアを発表。各々の学びや経験を活かした自由な視点から生まれる提案はどれも面白そう。後半はグループに分かれ優秀アイデアについて話し合いました。付箋や紙を使いながら、あれは？これは？とそれぞれの考えが重なって、どんどん魅力的な企画が形になっていきました！

見学に来た企業と学生の交流の機会もあり、新しい繋がりも生まれていました。金山のまちで、色んなチャレンジが動き出していく予感がします！

当日の様子



地まぢ チャレンジ ～33人目～

古橋和佳さんご紹介

ナゴヤSUP推進協議会 会長

藤井 修さん

- Q まちづくりに取組んできた中でうれしかったこと
 A 同志らと共に世に役立つ諸々を国内でいち早く成し遂げたこと
 Q これから取組みたいと考えていること
 A アジア大会を契機とする学区横断的地域コミュニティの形成
 Q 最後にひとこと
 A 「人生の本舞台は常に将来に在り」の書を見ては自問しています

見つけた小ネタは発信も大切！ということで、さらに後半ではシンガーソングライターの小サトウヒロコさんにも登場いただき、今年度のまちづくりびと講座で作成した「小ネタ新聞」を題材に作詞WSを行いました。「気になる擁壁」「変わった公園」など具体的な小ネタに向き合うことで自分の地域の小ネタもイメージできるようになりました。

グループでの作詞作業は、まさに交流のための「小さなきっかけ」。こうしたことから、小ネタが飛び交う地域の関係性が築かれていくのかなと感じました。



サトウヒロコ さん

地まぢ団体紹介

NPO法人 KIZURI中小田井

歴史と歩むまちづくり

NPO法人KIZURI中小田井は、西区で歴史的建造物の保存・活用のために活動されています。取材当日、古民家をリノベした活動拠点「ポレポレ」では地域の方や街並みを見に来た方が、話に花を咲かせたり、ご飯を食べたりと穏やかな時間を過ごしていました。代表の櫻井さんによると、歴史的な街並みを見にきても休憩する場所がない、地域のみんが集まって相談したり活動する場がないといった悩みがあり、「ポレポレ」はその両方を満たす地域拠点として活用されているとのこと。「ポレポレ」はスワヒリ語で「ゆっくり」を意味する言葉。週3のカフェ営業について理事の澤田さんは「素人がお店をやるのは大変。継続するにはこのくらいがピッタリ。」と語られました。団体の活動が、ゆったりと地域の輪を繋げています。

澤田さんとポレポレ

今回お話を伺った藤井さんは、名古屋駅地区街づくり協議会の事務局長を務められていました。名だたる企業が参加する協議会のまとめ役として働き、「せつかくこんな立場になったならば、名駅エリアひいては名古屋・名古屋圏に役に立ちたい！」と心を燃やしていたそうです。地下接続基準の緩和を実現させるなど、名駅の現在の姿につながる様々な活動に取り組みました。また、まちづくりに身を投じる中で、気持ちにも変化が。『会社の中でまちのことを考えることで「会社のために働く“会社人”から、社会のために活動する“社会人”になれたのだ』とお話いただきました。現在は水辺で活動されていますがお人柄からは、まちづくりへの熱い炎を感じました。(松井)

